

はじめに

森林総合研究所林木育種センターの前身である国立林木育種場が昭和32年に設立されてから平成29年度で60周年を迎えました。このことを記念し、平成30年2月に東京都江東区の木材会館において、「豊かで多様な森林の恵みを未来につなげる林木育種」をテーマとして、林木育種事業60周年記念シンポジウムを開催し、国、都道府県、関係団体等から200名を超える皆様に参加いただきました。当日は、東京大学教授の井出雄二氏による基調講演の後、林木育種センターによる最近の主な研究成果等の発表及び今後の林木育種のあり方などについてのパネルディスカッションが行われ、60周年の節目として大変有意義なものとなりました。

平成29年度は、平成28年度を初年度とする第4期中長期計画（国立研究開発法人森林研究・整備機構としての5カ年間の業務の目標や進め方等を示したもの）の2年目として様々な研究開発等に取り組み、次に示すような成果を上げることができました。

- ・ スギ等のエリートツリー69系統、マツノザイセンチュウ抵抗性第二世代等マツ38品種、無花粉スギ1品種の優良品種を開発
- ・ より強いマツノザイセンチュウ抵抗性個体の選抜技術を開発するとともに、これを品種開発に活用
- ・ 新たな育種統計モデルを開発し、最適環境での成長に対する乾燥条件下での成長低下の程度を解明
- ・ 水耕栽培によりスギの難発根性クローンの発根率を向上
- ・ 早生樹種のコウヨウザンの成長、材質等を評価し、優良クローン22系統を選定するとともに、「コウヨウザンの特性と増殖の手引き」を公表
- ・ 遺伝子組換えスギの野外栽培試験により、成長が劣らないこと等を実証
- ・ ケニアのメリア及びアカシアについて、「ケニア乾燥地域におけるメリアとアカシアの遺伝資源保全ガイドライン（英文）」を公表
- ・ 機能性樹木としての需要が期待できるキハダの種子等を収集し、優良系統を選抜するための母集団の作成に着手
- ・ 開発された優良品種等の種苗について計画的な生産と適期配布に努め、都道府県等の要望する期間内に約1.8万本を配布
- ・ 開発した優良品種の早期普及を図るため、都道府県等に対し採種園等の造成・改良に関する講習会を開催

さらに、「橋渡し」機能の強化に向けた取組みとして、これまでの各育種基本区ごとの林木育種連携ネットワークに加え、北海道、東北、関東、中部等の各地域・組織を跨いだカラマツ種苗の普及に関する技術情報等の提供、交換を目的として、新たにカラマツ育種技術連絡会を発足させ、メールマガジン等により情報発信を行ったところです。

以上のように、平成29年度の林木育種につきましては、都道府県、森林管理局・署等関係機関の皆様のご協力もいただきながら、一定の成果を上げることができました。林木育種事業60周年の節目を迎え、今後も林業の成長産業化や花粉発生源対策、気候変動への対応など様々な社会的ニーズに対応しながら、それぞれの地域に根ざした多様な森林の恵みを未来につないでいくため、これまでの歩みを新たな立脚点とし、林木育種のさらなる発展を目指して参る所存ですので、引き続き皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成31年3月

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター所長 川野 康朗